

野の仏ギャラリー ⑪

馬頭観音坐像

東多久町別府

右膝を斜めに立てた坐像で、光背・方形の蓮華台と一体化しています。正面と右面は怒り、左面は微笑んでいます。正面の逆立つ頭髮上に馬頭、三面の眉間に第三眼があります。正面の手は馬口(頭)印を結んでいます。光背に刻まれた左手は法輪・宝棒・絹索、右手は斧・剣を持ちますが、一手は持物がありません。馬頭観音は観世音菩薩の変化観音で、六観音の一つです。



○第三眼は左右の眼の間に縦長に刻まれています。
○馬口(頭)印は一般に親指中指、小指を立てます。
○頭上の馬は悪魔を下し、煩惱を砕く象徴とされます。馬の守護ともされます。
多久市郷土資料館長 藤井伸幸

今月の論語

益者三友、損者三友

よい友人には3種類ある。また、悪い友人にも3種類ある。

今月の帰宅放送は、東原摩舎中央校9年の吉浦碧月さんです

教育長コラム

ちよっとい話



「平和と幸せの象徴」

感染症の影響で学校を突如閉めざるをえなかった。学習はまとめの時期であり、学級は最も絆の深まる3月に。

とりわけ、卒業式の厳粛さや緊張感のもたらす効果は、自覚を高めたり、母校や恩師との別離の情を抱かせたりと大きいものがある。交通指導員さんはじめ地域の方々への感謝の念も改めて認識するものだ。堂々と証書を受け取る姿をお見せすることが恩返しだ、と大切にしてきた式典だが、縮小せざるを得なかった。3月で学級を離れ離れになる子等にとっても、残された日が消えたのだから過酷だった。

学校にとって集大成の3月。失われた3月を補うには時間を要すが、安全第一。

本市が設けた登校日には、再会を喜び合う子等の笑顔で校舎が息を吹き返した。学校に子等が集うのは、平和や幸せの象徴だと改めて考えさせられた。

教育長 田原優子

市民文芸

◆冬籠り老ふたりの暮しにも
春を告げくる沈丁花匂う
梶原恵美子

◆電話をば切つても笑みがこぼれ来る
十年振りの友との約束
川浪 信子

◆信じてる僕の言葉は天国の
扉を開き世界を救う
野崎 隆幸

◆眼を閉じて衆生の嘆き聴き給う
野末におわすお地蔵様は
浦野 嘉恵

◆気が付けば枯木の枝に小鳥居る
吾の動きは観られるいらし
尾形 節子

◆儚さは一寸ほどの忘れ雪
富樫 明美

◆白梅や別れたくなく人と居て
咲き継いで見飽くことなき
武富 律子

◆生徒等の朝の挨拶木の芽風
中嶋 清子

◆つややかに顔にかかるや春の月
倉成 皓二

◆桜見る会真実食べたシユレッダー
似た顔が二つ重なる肩車
田代まつこ

◆こぼれ種花もつけます実も結ぶ
古茶碗あつと驚くその値段
大谷 和

◆ウイルスを押えた国に金メダル
松山下 修
西山 残月

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

俳句 《互選》

川柳 《多久川柳会 互選》